

科目名	家庭支援論						
科目名(英)	Family Support						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山 八保子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	児童養護施設において保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科 2年生						
授業概要	保育士は「児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行う」専門職として児童副賞に位置付けられている。つまり、子育て支援に対しても専門的な知識や技術を有することを示す。現場に置いては、保育士がより効果的に家族を援助するために、ソーシャルワークやカウンセリングの基本知識や技術を学び、援助することが求められている。3年次の児童福祉施設実習に向け、感じる力、深く考える力を身につけ、保育士としての役割を理解していく。						
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	<input type="radio"/>					家族援助の対象と役割について説明することができる。	
		<input type="radio"/>				家族の形態、機能、取り巻く地域社会について説明することができる。	
		<input type="radio"/>				虐待家族への支援について説明することができる。	
		<input type="radio"/>				児童福祉施設(養護系)における保育士の役割について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	ミネルヴァ書房 よくわかる家庭支援論【第2版】						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	児童福祉施設実習について(希望調査票配布)			児童福祉施設について理解しておく		
	2	児童心理治療施設、乳児院、児童養護施設について			児童福祉施設について理解しておく		
	3	科目ガイダンス、家族援助が求められている背景と意義について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	家族の形態、多様化する家族			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	家族を取り巻く地域社会はどのように変化しているか			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	社会の変化と家族の変化			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	子どもを巡る諸問題とその背景			レポートの準備をしておく		
	8	児童虐待について			児童虐待に関する記事を事前に読んでおくこと		
	9	虐待家族に関わる機関・施設・サービス			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	児童相談所について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	虐待家族への支援について① 子どもへの支援			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	虐待家族への支援について② 親への支援			レポートの準備をしておく		
	13	乳児院における家庭支援について			乳児院の復習をしておく		
	14	児童養護施設における家庭支援について			児童養護施設の復習をしておく		
	15	母子生活支援施設における家庭支援について			母子生活支援施設について予習をしておく		
評価方法	(1)出席状況(居眠りは欠課とする) (2)授業への取り組み状況 (3)レポート(2回) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○	◎				40%
	授業への取り組み状況		○		◎		30%
	出席状況				◎		30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	GCB II						
科目名(英)	Global Citizen Basic II						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中畔 政憲		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	「社会とのつながりの中で自分自身の生きる姿勢」、また“志”について考える。夢を言語化してビジョンにし、強い信念で、自分以外の人や社会・公のことが視野に入ると“志”に近づくという事を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		自ら考える、気づく力の獲得	
				○		伝える力の醸成。自己発言力の育成	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシックⅡ 志の教育						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	グローバルシティズンと“志”			振り返りレポートの作成		
	2	自分を取り巻く環境を知る			振り返りレポートの作成		
	3	自己を知る			振り返りレポートの作成		
	4	伝える力を学ぶⅠ			振り返りレポートの作成		
	5	伝える力を学ぶⅡ			振り返りレポートの作成		
	6	先人の志に学ぶ			振り返りレポートの作成		
	7	成功者の考え方に学ぶ			振り返りレポートの作成		
	8	自らの志を言語化する			振り返りレポートの作成		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)レポートを8回実施する (2)最後の授業で発表する。 評価は合格「R」か不合格「D」のいずれかとなる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート作成・発表				◎		100%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位未取得となる						

科目名	オペレッタ I -②						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	前田 聖悟		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	オペレッタというものの概念を理解するために様々な視聴覚教材に触れる。その中で自分達のこれまでの学びから導き出されるオリジナル(独自性)を発見し、よりクリエイティブな創作劇を協同し作り出していく。他者と意見を交わしながら物語の概要を作り上げていく過程で協調性を身に付ける。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				テーマに基づきながら物語の概要を作り出していくことができる。	
	○	○				個人の特徴や性格を把握し、個性を活かし適切な配役を行っていくことができる。	
		○		○		完成に向け道具の製作や、たち稽古など計画的に練習を組み立てていくことができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ストーリーを作る(話し合い)					
	2	ストーリーを作る(話し合い)					
	3	ストーリーを作る(話し合い)					
	4	ストーリーを作る(話し合い)					
	5	ストーリーを作る(話し合い)					
	6	配役を決める					
	7	配役を決める					
	8	配役を決める					
	9	大道具、小道具、壁面、音響、衣装の役割決め					
	10	大道具、小道具、壁面、音響、衣装の役割決め					
	11	練習計画の作成					
	12	練習計画の作成					
	13	練習計画の作成					
	14	台本読み合わせ					
15	たち稽古						
評価方法	①授業態度 ②実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○	◎		◎		50%
	取り組み	◎			◎		50%
履修上の注意	出席が10回に満たないものに単位の修得は認めない						

科目名	一般教養Ⅱ-②						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	岩下 隆司		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次の児童福祉施設実習に向けて、子どもたちの宿題等を見てあげられるように数学の復習を行う</li> <li>・文章問題を解くことによって、考える力を向上させ、他の学生に解き方を説明することで、伝達力を向上させていく</li> </ul>						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					3年次の児童福祉施設実習に向けて、子どもたちの宿題等を見てあげられるように数学の復習を行う	
	○					文章問題を解くことによって、考える力を向上させ、他の学生に解き方を説明することで、伝達力を向上させていく	
テキスト・教材 参考図書	実教出版 一般教養&SPI2 実教出版 一般教養チェック&マスター						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	文章題(割合)					
	2	文章題(仕事量)					
	3	穴埋め問題					
	4	一次方程式					
	5	一次方程式					
	6	連立方程式					
	7	食塩水の濃度計算					
	8	食塩水の濃度計算					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	後期末正試験で評価 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位を付与しない。						

科目名	英会話 I						
科目名(英)	English Conversation I						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	脇野真帆		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科2年生						
授業概要	わが国のグローバル化が進む中、日常英会話は社会人としての常識になりつつある。医療福祉の現場にも外国人が入るようになり、ベーシックな英会話、医療用語などの知識を養っておくことは必須である。中学までの英語を再度復習し、ロールプレイで基礎英会話力をしっかり習得する。						
授業形式	講義	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				中学英語までの文法を再度復習し、主語述語目的語の文を作ることができる。	
	○	○				一般動詞、身近なもの名詞 形容詞を習得し、簡単な会話ができるようになる。	
	○	○				子どもがかかりやすい病名、怪我、状況を英語で説明できるようになる。	
	○			○		英語のあそび歌、絵本の翻訳にも挑戦し、保育実習でも活用できるようにする。	
テキスト・教材 参考図書	金星堂Happy English For Childcare ,Longman Side by Side, Oxford English Time						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Unit1 人に何かを頼む表現			教科書を読んでおくこと		
	2	Unit2 場所、位置を伝える表現			教科書を事前に読んでおくこと		
	3	Unit3 調子を聞く、形容詞のボキャブラリー			教科書を事前に読んでおくこと		
	4	Unit4 好きなもの嫌いなものを聞く表現 名詞のボキャブラリー			教科書を事前に読んでおくこと		
	5	Unit5-6 There is There areの文 と命令文			昔話の翻訳をします。辞書を持参してください。		
	6	Unit7-8 アレルギーを伝える 大事なことを伝える文			教科書を事前に読んでおくこと		
	7	Unit9-10 状況を伝える 仮定法と過去形			教科書を事前に読んでおくこと		
	8	研究発表			プレゼンテーションの予定です。		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)プレゼンテーションを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	宿題・レポート	○	◎		◎		10%
履修上の注意							

科目名	英会話 I SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	脇野 真帆		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	英会話 I の授業を通して学んだことを活かしつつ、日本独自の「おもてなしの精神」を備えてのレクリエーションを実施することで、実際に外国人の方々とコミュニケーションを図り楽しんでいただくことができることを目指す。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		グループやクラス内において積極的な協力を実践することができる。	
	○					レクリエーションの要素を宮めなからの連立を意識することができる字ひを待てることかできる。	
	○					レクリエーションを行う中で「伝える」ということを意識して、、しっかりとコミュニケーションを図ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目(2日目に向けての準備、レクリエーションの計画立案、シュミレーション)					
	2	1日目(2日目に向けての準備、レクリエーションの計画立案、シュミレーション)					
	3	1日目(2日目に向けての準備、レクリエーションの計画立案、シュミレーション)					
	4	1日目(2日目に向けての準備、レクリエーションの計画立案、シュミレーション)				準備に対して入念なりハーサルを行う。	
	5	2日目(外国人をお招きしてのレクリエーションの実施・コミュニケーション)					
	6	2日目(外国人をお招きしてのレクリエーションの実施・コミュニケーション)					
	7	2日目(外国人をお招きしてのレクリエーションの実施・コミュニケーション)					
	8	2日目(まとめ・振り返り)					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況				◎		50%
	レポート作成		○				50%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	音楽(器楽・声楽)②SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中村 寛子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	地域の小学校での音楽発表会の演奏会の発表を通してこどもの為の様々な楽器の合奏、合唱、身体表現の力を身につける。また、音楽会の練習を通して保育者として必要なクラスメイトや他学年の仲間達との協働性、努力を積み重ねる力、音楽を通しての指導力を学ぶ機会とする						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			◎			身体のさまざまな部位を使用するボディパーカッションを通し、リズムを刻む事が出来る。	
			◎			自分のパートの音階を正しく歌唱し、合唱をすることが出来る	
		◎	◎			ドレミパイプを使用し、正しくリズムを刻む事が出来る。	
	○	○		○		ソーラン節を基にオリジナルの動きなどをいれた踊りをつくる事が出来る	
			◎			こども達の前で楽しく表現力を持ち、合奏・合唱を発表することが出来る。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ボディパーカッション					
	2	ドレミパイプ合奏					
	3	合唱「怪獣のパレード」					
	4	ソーラン節練習					
	5	2年生との合同練習 ランスルー①					
	6	2年生との合同練習 ランスルー②					
	7	音楽会本番 発表					
	8	振り返り・まとめ					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)SCの出席(2)SC中の取り組みに対する意欲関心態度(3)歌唱表現(4)リズム表現をを以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	SC出席					○	10%
	意欲・関心・態度			○	○		30%
	歌唱表現			○	○		30%
	リズム表現			○	○		30%
履修上の注意	遅刻(30分以上)欠席の場合近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。						

科目名	音楽表現Ⅱ-②				
科目名(英)	music performanceⅢ				
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	中村寛子
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	こども未来学科2年				
授業概要	<p>保育の現場では、音楽は必須のものとなる。朝登園後「おはようの歌」、昼食には「お弁当の歌」、お昼寝時には「お休みの歌」、降園時には「お帰りの歌」、その他にも自然や季節を感じて感性を高めるために「様々な季節の歌」、「遊びうた」、誕生会等の行事に行進を促す「行進曲」等。その音楽をすべて、保育士が把握をし、ピアノで伴奏していかなくてはならない。この授業ではできる限り沢山の曲を歌い、ピアノ演奏する。そのために必要な技術、知識を身に付けるものである。</p>				
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○				音楽の基本知識となる、楽典の習得(楽譜、音符や休符、拍子、記号等の知識)
		○			ピアノ演奏実技の習得(正しい運指、テクニック、左右の手のスムーズな動きパラパラな動きに対するスムーズな動き)
		○			声楽の基本実技の習得(正しい音程、呼吸法、リズム等)
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿大学九州短期大学発行/ピアノ教本・声楽教本</li> <li>・ヤマハミュージックメディア発行/はじめての楽典ブック</li> <li>・チャイルド社発行/こどものうた100</li> <li>・音楽の友社発行/バイエル教則本・講師作成の楽譜集(ファイル保管)</li> </ul>				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	・後期授業のガイダンス(15分)夏休み宿題の確認(バイエル80番、81番)・練習(75分)			バイエル80番、81番を弾いてくる
	2	・おはようの歌の実習(5分)・バイエル80番、81番の練習(60分)・楽典の解説(25分)			バイエル80番、81番を弾いてくる
	3	・おはようの歌の実習(5分)・まつぼつくり(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)お帰りの歌の実習(5分)			まつぼつくりの弾き歌い練習をしてくる
	4	・おはようの歌の実習(5分)・おもちゃのチャチャチャ(近大教本)の解説(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			おもちゃのチャチャチャの弾き歌い練習をしてくる
	5	・おはようの歌の実習(5分)・まっかな秋(ファイル)の解説、歌唱指導(15分)・楽典の解説(15分)・練習(50分)・お帰りの歌の実習(5分)			まっかな秋の弾き歌い練習をしてくる
	6	・おはようの歌の実習(5分)・うんどうかい(ファイル)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			うんどうかいの弾き歌いの練習をしてくる
	7	・おはようの歌の実習(5分)・思い出のアルバム(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の実習(5分)			思い出のアルバムの弾き歌いを練習してくる
	8	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			すべての曲が合格できるように、よく練習してくる
	9	・おはようの歌の実習(5分)・やぎさんゆうびん(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の実習(5分)			やぎさんゆうびんの日恋歌意を練習してくる
	10	・おはようの歌の実習(5分)・バイエル88番(バイエル教則本)の解説(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			バイエル88番を弾いてくる
	11	・おはようの歌の実習(5分)・こどりのうた(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の実習(5分)			こどりのうたの弾き歌いをしてくる
	12	・おはようの歌の実習(5分)・あわてんぼうのサンタクロース(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・楽典(5分)・練習(60分)・お帰りの歌の実習(5分)			あわてんぼうのサンタクロースの弾き歌いをしてくる
	13	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			すべての曲が合格できるように、よく練習してくる
	14	・おはようの歌の実習(5分)・まめまき(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			豆まきの弾き歌いを練習してくる
	15	・おはようの歌の実習(5分)・うれしいひなまつり(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の実習(5分)			うれしいひなまつりの弾き歌いを練習してくる
	16	・おはようの歌の実習(5分)・いぬのおまわりさん(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			いぬのおまわりさんの弾き歌いを練習してくる
	17	・おはようの歌の実習(5分)・バイエル100番(バイエル教則本)の解説(15分)・楽典(5分)・練習(60分)・お帰りの歌の実習(5分)			バイエル100番を練習してくる
	18	・おはようの歌の実習(5分)・なんでもたべるこ(ファイル)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			なんでもたべるこの弾き歌いを練習してくる
	19	・おはようの歌の実習(5分)・バスごっこ(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			バスごっこの弾き歌いを練習してくる
	20	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			すべての曲が合格できるように、よく練習してくる
	21	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(6分)			すべての曲が合格できるように、よく練習してくる
	22	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(7分)			すべての曲が合格できるように、よく練習してくる



	23	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(8分)	すべての曲が合格できるように、よく練習してくる				
	24	後期試験					
評価方法	授業の課題曲をすべて合格しない者は、定期試験の資格がないものとして、受験不可とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト		◎		○		20%
履修上の注意	実習前は実習先から指定された曲の練習を最優先とする。						

科目名	健康Ⅱ								
科目名(英)									
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川端 いづみ				
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	こども未来学科2年								
授業概要	子どもにとって望ましい遊びと、家庭・園・地域社会の生活の過ごし方を見直し子どもの世界で融和していくために、健康がどう関わっていくかを考える								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○			○		健康維持・増進の為の3本柱			
	○			○		現代っ子の体の異変について考える			
	○			○		安全管理と潜在危険について考える			
テキスト・教材 参考図書									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	現代人の健康と生活				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	2	健全な心身の発育発達にみる、乳幼児期の発達課題と特徴				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	3	乳幼児期・児童期の子どもの健康な生活と遊び				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	4	領域「健康」に関する保育内容とその方法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	5	園における健康作りのための保育指導とその援助の仕方領域「健康」に関する保育内容とその方法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	6	健康保育における四季の生活と遊び				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	7	新しい時代と生きる子どもと健康健康保育における四季の生活と遊び				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	8	定期試験							
	9								
	10								
	11								
	12								
	13								
	14								
15									
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	○		◎		80%		
	小テスト	○	○		◎		10%		
	宿題・レポート	◎							
	発表・作品	○			◎		10%		
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。								

科目名	交流ゼミⅡ-②					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中畔政憲・上村仁美・下川武志	
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	こども未来学科 2年					
授業概要	こども未来学科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備をおこなっていく。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
				○		積極的な姿勢を持つて、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることが できる。
				○		物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行するこ ができる。
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。
			○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。	
テキスト・教材 参考図書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	3学年全体でのレクリエーション				
	2	3学年全体でのレクリエーション				
	3	グループ内でのレクリエーション				
	4	こども未来学科「交流会」に向けての準備				
	5	交流会での実践				
	6	交流会での実践				
	7	交流会での実践				
	8	交流会での実践				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先である。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
						評価割合
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。					

科目名	合奏Ⅱ-②						
科目名(英)	Ensemble						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中村寛子 高松聡美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	保育の現場で必要不可欠な音楽、その中でも良く使用する打楽器の名称や奏法を正しく理解し応用できるようになる。この授業ではクラス単位で協力して準備・練習に取り組むことで、「コミュニケーション力」「チーム力」「忍耐力」「協調性」「人を思いやる心」を身に付ける。限られた時間内で作品を仕上げる集中力を持つ。社会生活の仕組みを合奏を通して学ぶ事ができる。12月目途に数曲仕上げる事ができる。後輩の指導ができるようになる。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
					○	資料・楽譜に記名、ファイルに収め管理することができる。	
					○	準備・後片付けが速やかにきれいに行えるようになる。	
			○			楽器の名前を覚え、正しく使用する事ができる。	
	○			○		チーム内でより良い作品にするための話し合いができるようになる。	
○	○					他のチームの良いところ、改善点などを分析できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	中村寛子編曲集 高松聡美編曲集						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	後期について一取り組み曲など全体像を把握する			クラスのチームワークを整えておくこと		
	2	練習一楽譜を読む パート分けをする 役割分担を決める			楽譜をなくさないようにすること		
	3	練習一ドレミパイプなどチームを中心とした合奏の練習			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	4	練習一通せるようになる			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	5	練習・レベルアップー強弱をつける テンポ感の調整 暗譜			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと 暗譜をすること		
	6	練習・レベルアップー全体の流れの調整			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	7	練習・レベルアップー動きを入れる等の総仕上げ			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	8	練習・レベルアップー動きを入れる等の総仕上げ			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)資料・楽譜の管理ができていないか。(2)授業中の態度・意欲。(3)作品発表を実施する。(4)楽器の名称についての筆記。奏法の実技テストを行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品			◎			25%
	授業態度				◎		25%
	資料・楽譜楽器管理					◎	25%
楽器の名称・奏法		◎	◎			25%	
履修上の注意	仕上がりに妥協せず、よりレベルアップを目指してもらいたい。後輩への指導もできるよう心掛けてほしい。						

科目名	児童福祉施設実習指導Ⅰ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	上村仁美		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	3年次保育実習Ⅰ(施設)の事前学習として、児童福祉施設の概要や、それに関わる制度・対象児。職員などについての基礎知識を学び、児童福祉施設での実習に対してのイメージを持ち、実習に対しての意欲・関心・態度を育む為の授業とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎					児童福祉施設の種別理解し、どんな施設があるかを説明する事が出来る。	
		◎		◎		実習内容に対してのイメージを持つ事が出来、実習に対してプラスに望む意欲を持つ事が出来る。	
	◎					児童養護施設・児童発達センター・乳児院の対象児やそれそれに関わる職員の職務を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション 児童福祉施設の実習の流れについて			教科書を持ってくる		
	2	福祉系 医療系の児童福祉施設について			教科書を持ってくる		
	3	実習報告会①			教科書を持ってくる		
	4	実習報告会②			教科書を持ってくる		
	5	児童養護施設について			教科書を持ってくる		
	6	乳児院について			教科書を持ってくる		
	7	児童発達支援センターについて			教科書を持ってくる		
	8	次年度の実習にむけてのまとめ			教科書を持ってくる		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)授業への出席 (2)意欲・関心・態度 (3) レポート提出 以上を以下の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席					○	20%
	意欲・関心 態度				○		40%
	提出物		○		○		40%
履修上の注意	欠席が授業回数全体の3分の1以上ある場合は単位習得不可となる。						

科目名	就職実務 I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中畔 政憲		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	社会人になる上でのマナーや身嗜み、教養知識を身につける。まずは、就職活動における企業研究・履歴書添削・面接指導を行い就職内定へ繋げる。また、クラスや学科行事を行い学科・学年を跨いで交流を深める事でコミュニケーション力向上や協調性を身につけ業界へ適した人材育成に繋げる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		業界に適した清潔感のある身嗜みをし日常的に維持することができる	
				○		社会人としてのマナー(挨拶・電話・メール・態度など)を身につけ実践することができる	
	○					就職活動における報連相を素早く行うことができる	
	○					好感のもてる表情や口調で自身の伝えたいことを話し、企業の求める人材像に相応した面接ができる	
			○			自身の立場をわきまえて行動し、周囲へ配慮することができる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック、求人票、受験者報告書、配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	「就職」を考える			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	2	就職環境を知ろう①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	3	自己分析とキャリアプランニング①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	4	仕事のことを研究しよう①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	5	自己表現①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	6	企業・施設アプローチ①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	7	就職研修①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	8	就職研修②			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度				◎		50%
	意欲・努力				◎		20%
	提出物状況				◎		30%
履修上の注意	出席が2/3未満の場合は評価対象外となる。						

科目名	障害児保育									
科目名(英)	syougajihouiku									
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	瀧口直子					
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目						
対象学科・学年	こども未来学科 2年									
授業概要	様々な障害の特徴とその人たちが感じている困難さを、本人の目線に立って理解し、基本的な生活習慣の獲得、集団生活・遊びの指導・援助をできるだけ具体的に考えることができるようになる。また、保護者やきょうだい抱えがちな悩みや困難を理解し、子育て支援を考える。さらに、関係機関との連携の進め方を理解し、それぞれのライフステージで求められているネットワークづくりやチームでの地域支援体制について考える。									
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:	<input type="radio"/>	実習:	<input type="radio"/>	実技:	<input type="radio"/>	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	<input type="radio"/>					様々な障害の特徴とその人たちが感じている「困り感」を説明できる				
	<input type="radio"/>					0歳からの療育の必要性と療育のポイントを説明できる。				
	<input type="radio"/>					様々なアプローチについて簡単に説明できる。				
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				それぞれのライフステージにおける関係機関の連携・ネットワークの実際を調べる				
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				障害の特徴と発達段階を考慮した個別支援計画の実際を学び、具体的な配慮について考える。				
			<input type="radio"/>			障害や発達のアンバランスがあるために生きにくさを感じている方の目線で必要な配慮ができる。				
テキスト・教材 参考図書	「よくわかる障害児保育」ミネルヴァ書房、その他は授業で紹介します。									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	保護者支援(1)保護者の気持ち								
	2	保護者支援(2)障害のある子どもとその家族を支える								
	3	障害児保育の場～障害のある子どもの発達を保障する療育と保育								
	4	自分の住む自治体の療育システムを調べる(レポート提出)								
	5	保育・療育の実際—知的な発達におくれがある子どもの事例								
	6	保育・療育の実際—自閉症スペクトラム障害がある子どもの事例								
	7	保育・療育の実際—運動・聴覚・視覚に障害がある子どもの事例								
	8	「個別支援計画」と記録・評価(子どもの施設、大人の施設) その他の様々なアプローチ								
	9	映画『夜明け前の子どもたち』鑑賞								
	10	まとめ(テスト)								
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	授業中のワークや小レポート、まとめの筆記試験、授業中の態度・意欲などの総合評価で行います。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	◎					50%			
	小テスト									
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%			
	発表・作品				◎		15%			
	授業中の態度				◎		15%			
履修上の注意										

科目名	情報処理入門 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	岩下 隆司		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	各種提出資料や発表資料を作成できるよう ①入力レベルの向上 ②Microsoft Wordの基本的な操作方法の習得 ③Microsoft PowerPointの基本的な操作方法の習得 ④Microsoft Excelの基本的な操作方法の習得						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			ローマ字入力において、10分間に200文字～300文字入力できる。	
			○			Wordを使って、簡単なビジネス文書を作成できる。	
			○			PowerPointを使って、プレゼン用の発表資料を作成できる。	
			○			Excelを使って、簡単な表計算ができる。	
	○					パソコンの仕組みを理解し、適切に活用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	萌文書林 保育者のためのパソコン講座						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション(情報モラルとセキュリティ)・入力チェック					
	2	入力チェック・パソコンの仕組み・Wordの基本操作					
	3	入力チェック・キーボードの操作① 漢字かな変換					
	4	入力チェック・キーボードの操作② ショートカットキー					
	5	入力チェック・かんたんなおたより作成					
	6	入力チェック・ビジュアルコンテンツの作成					
	7	入力チェック・図表が入った文書の作成					
	8	入力チェック・Excelの基本操作・計算式の作成					
	9	入力チェック・関数の挿入					
	10	入力チェック・児童台帳の作成					
	11	入力チェック・グラフと計算式の活用					
	12	入力チェック・PowerPointの基本操作					
	13	入力チェック・保育園、幼稚園案内の作成					
	14	入力チェック・保育園、幼稚園案内の作成					
15	入力チェック・保育園、幼稚園案内の作成						
評価方法	(1)授業冒頭に10分間入力を実施する。(2)授業内で演習課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		10分入力文字数		◎	○		40%
		授業内実施課題の提出		◎	○		40%
		授業態度			◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を付与しない。						



科目名	情報処理入門 I SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	岩下 隆司		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	園の説明会(入園・就職等)や入園・卒園式などで動画を流すことが増えているため、動画編集ソフトを使用した動画作成の基本を身に付け、就職後もオリジナル動画を作成できる技術を身に付ける						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			動画編集ソフトを使って、オリジナル動画を作成することができる	
		○				動画編集することを想定した、スマートフォンを使った写真の撮影や動画撮影の方法を習得する	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1 日目	午前	・動画編集ソフトの操作方法			動画編集で使用する画像および動画データを持って くることが	
			・スマートフォンからのデータ取り出し方法				
			・テーマ「思い出ムービー」に沿った、画像・動画データの収集				
			・BGM等の決定、データ化				
	2 日目	午後	・各自動画の作成				
		午前	・各自動画の作成			不足している画像等の準備	
午後	・動画発表						
評価方法	作成された動画に対し ①テーマに沿った内容か ②人に見せることを意識して作成されたか ③動画の時間(5分程度) ④画像等は適切か ⑤取り組む姿勢 を1項目20点として評価 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	完成動画		○	◎			50%
	授業態度				◎		50%
履修上の注意	スクーリングのため、遅刻・欠席した場合は単位を付与しない 態度・意欲が悪い場合、単位を付与しない						

科目名	総合演習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	前田 聖悟・上村 仁美・下川 武志		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	履修している保育・教育に関係する様々な科目を包括的に理解し、科目同士の繋がりを意識し、より深い学びを得ることを目的とする。また、授業での学びをより実践的な学びへと昇華させ、知識と実践の連動を図る。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					幼稚園教諭、保育士として備えるべき姿勢や心構え、役割などを多角的に理解できる。	
	○		○			他者と協力しながら協向の中で幼稚園教諭、保育士としての資質を深めていくことができる。	
		○	○			学びを反復、連動し実践に生かすことでより深い学びを得ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	模擬設定保育に向けて					
	2	模擬設定保育に向けて					
	3	模擬設定保育に向けて					
	4	模擬設定保育に向けて					
	5	東住吉小学校音楽発表に向けて					
	6	東住吉小学校音楽発表に向けて					
	7	東住吉小学校音楽発表に向けて					
	8	東住吉小学校音楽発表に向けて					
	9	東住吉小学校音楽発表に向けて					
	10	あゆみらい保育園クリスマス発表会に向けて					
	11	あゆみらい保育園クリスマス発表会に向けて					
	12	あゆみらい保育園クリスマス発表会に向けて					
	13	後期交流会に向けて					
	14	後期交流会に向けて					
15	後期交流会に向けて						
評価方法	①授業態度 ②実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○	◎		◎		50%
	取り組み	◎			◎		50%
履修上の注意	出席が10回に満たないものに単位の修得は認めない						

科目名	保育園実習指導Ⅱ						
科目名(英)	Guidance to Child Care Field Study Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	前田 聖悟		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	保育園実習に向け日誌を書く際の視点の置き方や子どもの姿や発達を理解したうえでの指導案の作成方法を知る。また、実習で実施される設定保育に向け保育のシミュレーション等の準備を計画的に進めていく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				子どもの姿、保育士の仕事を捉えるための視点を習得する	
		○				自身の考察を踏まえ日誌に記録することが出来るようになる	
		○		○		子どもの発達を考慮した保育指導案の作成が出来るようになる	
テキスト・教材 参考図書	同文書院版 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	幼稚園実習の実習評価振り返り					
	2	様々な保育形態について					
	3	実習における観察、記録及び日誌の記入について					
	4	日誌の書き方、ポイントについて					
	5	事前実習直前指導(目標の設定)					
	6	事前実習振り返り					
	7	日誌の書き方、考察について					
	8	安全管理と健康について					
	9	食事の援助について					
	10	指導案とは、設定保育とは					
	11	指導案の書き方、ポイントについて					
	12	設定保育準備				準備に必要な材料等の準備	
	13	設定保育準備				準備に必要な材料等の準備	
	14	設定保育準備				準備に必要な材料等の準備	
15	実習初日持参書類の確認等、直前指導				実習に必要な書類を持参		
評価方法	①授業態度 ②発表 ③実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○	◎		◎		40%
	発表		◎	○	◎		30%
	取り組み	○	◎		◎		30%
履修上の注意	欠席の場合授業で配布された書類は各自で取りに来ること						

科目名	保育実技Ⅱ-②						
科目名(英)	childcare practice						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	長田 皓子		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	教師として子どもたちの前に立った時、いかに子どもたちを喜ばせながら子どもたちの意欲を引き出すきっかけづくりを学ぶ。また、学生自身が創る(作る)喜びを学びながら体験体得をしながらより良い教師を目指す。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					集中させるときの手遊び、教える手遊び、年齢にあった手遊びを身につける。	
	○			○		製作活動を幅広く経験する。	
	○		○			身体的活動を(体育)楽しくするきっかけづくりを学ぶ。	
	○	○				遊びの中にも知的活動があることを知る。	
	○					子どもたちから意欲を引っ張り出す方法を学ぶ。	
テキスト・教材 参考図書	教員が適宜準備する。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	紙飛行機飛ばし(いろいろな種類)					
	2	集団遊び(体育的内容も含む)					
	3	じゃんけん遊び・絵かき歌					
	4	身体を動かして遊ぶ(体育的内容も含む)					
	5	実習・実演(絵本を読む、その他一つ自分のできることを発表する)					
	6	実習・実演(絵本を読む、その他一つ自分のできることを発表する)					
	7	宙返りゲーム、ひっくり猫					
	8	凧あげ(凧をつくったり、公園にあげに行く)					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	以下の通り、評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート		○				10%
	発表・作品				◎		70%
	出席						10%
	積極的参加						10%
履修上の注意	学びたい・身につけたいという意欲を重視する。						

科目名	保育実習 I (保育所)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	80時間	担当者	前田 聖悟		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	保育士資格を取得するために保育所で行う実習。10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ ①保育所における1日の流れ ②子どもへの理解を深める ③保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ ④保育所等の技術や記録方法について実践的に学ぶ ⑤保育士を志すものとして自覚を高める						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのようにつながるか理解することができる	
				○		実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる	
				○		自分なりの保育観や子ども観を深め確立する	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 保育所保育指針解説書						
授業計画	授業項目・内容			授業外学修指示			
	10 日間	<p>保育所実習では、以下の観点から保育所における保育がどのようになされているかを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の内容、機能について理解する (保育所の1日の流れやプログラムの理解など)</li> <li>2. 保育所における子どもの理解 (年齢(月齢)ごとの子どもの発達とその特徴など)</li> <li>3. 保育所における保育者の職務内容、役割などを理解する</li> <li>4. 日誌や指導案の書き方を学ぶ</li> </ol> <p>担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など保育実習に向けた準備をする</li> <li>・各自の実習のねらい、課題を明確にする</li> <li>・実習後の日誌作成のまとめと、実習の反省と課題を明確にする</li> </ul>		
評価方法	①実習日誌・事後レポートなどの提出物 ②実習園の評価 ③勤務状況等を総合的に評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物		○		◎		50%
	実習園の評価		○	○	◎		30%
	勤務状況等				◎		20%
履修上の注意	実習要件科目の単位をすべて修得していること						

科目名	保育実習事前事後指導 I (保育所) SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	前田 聖悟		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	保育実習の意義・目的・内容といった概要を正しく理解する。それに続いて幼稚園と保育所の違いや保育所保育指針の改定内容についての解説を行い、指針の内容についての理解を深めていく。また、模擬保育を通して3歳未満児や乳児に対する保育方法を知る。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					現代における保育園の役割を正しく理解することができる。	
	○					幼稚園と保育園の違いを知り、正しく理解することができる。	
	○			○		模擬保育を通し3歳未満児、乳児に対する保育方法を知ることができる。	
	○			○		模擬保育を批判的に考察し、自身の保育内容に反映することができる。	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園教育要領・保育所保育指針						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	講義『幼保の違い、保育園の役割、保育所保育指針について』					
	2	模擬保育実践					
	3	模擬保育実践					
	4	全体考察・レポート作成					
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)SCの出席(2)授業への参加意欲・発表(3)事後レポートを以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	SCの出席					○	10%
	授業への参加意欲・発表		○		◎		50%
	レポート	○	◎				40%
履修上の注意	遅刻(30分以上)欠席の場合近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。						

科目名	保育製作						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	前田 聖悟		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	はさみ、のり、カッター等の製作に用いる道具の特性を知り、正しく機能的に使うことが出来るようになる。また、それらの知識を複合的に実践に活かしテーマに基づいた製作作品を作り上げる						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		◎	◎			保育製作に必要な道具の正しい使い方を習得し実践できる	
		○	◎			コラーージュの技法を用いテーマに基づき製作を行うことが出来る	
テキスト・教材 参考図書	必要に応じて指示する						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業ガイダンス					
	2	調べ学習(はさみ、のり、絵の具、クレヨン)				USBの準備	
	3	調べ学習(はさみ、のり、絵の具、クレヨン)				USBの準備	
	4	コラーージュの技法について					
	5	コラーージュを使った作品作り				作品作りに必要な道具等の準備	
	6	コラーージュを使った作品作り				作品作りに必要な道具等の準備	
	7	コラーージュを使った作品作り				作品作りに必要な道具等の準備	
	8	コラーージュを使った作品作り				作品作りに必要な道具等の準備	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①授業態度 ②発表、作品 ③実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度		○		◎		30%
	発表		◎		○		30%
	取り組み	○	◎		◎		40%
履修上の注意	出席が6回に満たないものに単位の取得は認めない						

科目名	幼児体育SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	水上 勝彦		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	幼児の運動あそびの必要性を知るとともに、発達・能力を把握する。また、運動あそびの展開及び運動の補助、安全管理や体育指導を身につける。「幼児体育」の授業で培った内容をもとに、実際の「運動会」を想定した計画とシミュレーションを行い、その中から幼児との関わりや留意点についての学びを深める。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					子どもたちの安全性を最優先事項とし、他学科・グループにて議論した上で計画を立案することができる。	
		○				各年齢における発達・能力を把握した上で、その状況に応じた骨子案を計画することができる。	
				○		積極的に協力することで、実際の運動会に向けての運営を実践することができる。	
			○			他グループが運営する競技に子どもに扮して模擬的に参加することで、実際の状況に沿った体験を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	近畿大学・「幼児体育」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目 アイスプレイング、模擬運動会の計画・準備				年齢別に分けた各グループで発達段階に沿った競技の骨子案を検討する。	
	2	1日目 模擬運動会の計画・準備				年齢別に分けた各グループで発達段階に沿った競技の骨子案を検討する。	
	3	1日目 模擬運動会の計画・準備(リハーサル)				年齢別に分けた各グループで発達段階に沿った競技の骨子案を検討する。	
	4	1日目 模擬運動会の計画・準備(リハーサル)				年齢別に分けた各グループで発達段階に沿った競技の骨子案を検討する。	
	5	2日目 模擬運動会の実践(1日目の計画・準備に沿って)				1日目の骨子案に対するの修正を加えた内容での計画の実践を試みる。	
	6	2日目 模擬運動会の実践(1日目の計画・準備に沿って)				1日目の骨子案に対するの修正を加えた内容での計画の実践を試みる。	
	7	2日目 模擬運動会の実践(1日目の計画・準備に沿って)				1日目の骨子案に対するの修正を加えた内容での計画の実践を試みる。	
	8	2日目 模擬運動会の実践に対するの振り返り					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品・演技			○	◎		70%
	グループでの協力状況				◎		30%
履修上の注意	①遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						